

○4番（石垣 智矢君） 石垣智矢です。よろしくお願いいたします。

本定例会一番最後の一般質問をさせていただくこととなりました。東員町議会議員となり、2年目を迎えますが、今年度も気持ちを新たに積極的な議員活動に取り組む所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは一般質問に入らせていただきます。

本町は今年度記念すべき町制50周年の年を迎えます。素晴らしい今日があるのも、町民の皆様はもとより、この町の礎を築いていただいた先代の方々、本町にかかわっていただいた全ての皆様のご尽力のたまものだと感じております。深く感謝申し上げます。本町の伝統ある歴史と文化、そして先代の方々の熱い意思を、次は私たちの世代が引き継いでいかなければなりません。10年後20年後、あるいは私自身が80歳の年になる町制100周年のその日まで皆様が幸せだと思えるまちづくりの先頭で引っ張っていくのは、今の青年世代、若者世代であります。そこで今回の一般質問は若者世代への取り組みについて伺いたいと考えております。この質問に関しては、1年前の3月議会で質問させていただいておりますけれども、再度1年が経過し、現在の状況がどうであるのか、また今後の若者世代への取り組みについて、どのような方向性で議論がなされているのか論旨明快な答弁をよろしくお願いいたします。

それでは通告書に従いまして質問をさせていただきます。若者世代への取り組みについて。

その1、「平成28年3月定例会の一般質問で勤労青年教育の組織体制をどのように考えておられるのか」という私の問いに対して、教育長から青少年育成町民会議の中に青年教育を中心とした部会を設け、青年教育推進の組織体制を検討するとの答弁がありましたが、進捗状況はどうであるか、また今後の方向性をどのように考えているのか。

そして2つ目、政策課が担当する若者会議が発足してからもうすぐ1年が経とうとしております。現在の状況はどのようなのかお聞かせください。またその状況を踏まえて、今後の取り組みをどのように考えておられるのか、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 私からは若者会議についてご答弁を申し上げます。若者会議につきましては昨年7月スタートしておりまして、その中で議論されましたことから、「名物づくり」というのと「中部公園の活用」というこの2つですね、のテーマでそれぞれのグループに分かれて今会議を進めていただいております。石垣議員には時々オブザーバーとして見ていただいておりますので、多少はご承知をいただいているかなというふうには思いますが、それぞれのグループは現在まで10回程度の会議を重ねております。加えて全体会議として、全体が集まるものとして4回会議をしております。今までの会議では東員町の魅力や課題を洗い出し、これからの本町のまちづくりのテーマである「稼ぐ」ということを念頭に置いてできる事業のアイデアや方法などを何度も試行錯誤しながら議論をしていただいております。今年度中には事業の企画を完成させていただいて、来年度以降にはいくつかの事業実施を目指しております。将来的には一人でも多くの若者がここに参加し、東員町の中で彼らの手によって、町の将来の課題を解決するための事業や、企業が生まれ、若者の新しい職場や生活が創出されることを期

待いたしております。これからのまちづくりは町民主体で動かすものと考えておりますが、そのためには町の将来を担っていただくためのまちづくり協議会のような町民主体の組織が必要であると考えております。もちろん行政もそこに一会員として参加をさせていただくものでございますが、町内の各種団体や企業も参加する組織すべきであると考えておまして、こうした組織の核として若者会議が発展的に育ってくれないかなということを期待しております。若者会議を通して、すばらしい感性やアイデアを持った人材や、まちづくりを指導してくれるリーダーの発掘、人材育成などに繋がり、活力ある東員町を作っていってほしいと願うものでございます。

○議長（鷺田 昭男君） 岡野譲治教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 私からは勤労青年教育の推進と組織体制確立、今後の方向性についてお答えいたします。

まず、昨年3月の一般質問以降の町教育委員会の取り組みについてお答えいたします。東員町教育委員会では社会教育法の趣旨に則り、社会教育に必要な援助を行うこと。公民館の設置管理に関すること、青少年に対してボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動、その他の体験活動の機会を提供する事業の実施及びその省令に関すること等を予算の範囲内において行ってまいりました。そのための具体化として町民の皆さんの研修・体験・参加を基本コンセプトにしながら生涯学習の推進、公民館講座実施等多様な学習機会の提供、生涯スポーツの推進、スポーツ協会の元体育協会総合型スポーツクラブ等の連携を進め、自主的なスポーツ活動の活性化等青少年の健全育成を目指し関係機関・家庭などが連携し、一体となって取り組む体制を確立し、青少年のまちづくり活動への参加促進等を進めてまいりました。しかしながら、これらの取り組みに対して現実的には青年層の参加が少ない状況があったことから、この1年間いろいろな角度から教育委員会内で改善の方向性を探り、実行できるところから改善を進めてまいりました。具体的には社会教育課が実施している事業の参加施設利用の状況について分析を加え、現状把握に努めました。また、現代の若者のニーズがどこにあるのかを検討しました。その結果、少しでも研修・体験・参加してもらえる機会を作ることが大切だと考え改善を進めました。具体的には参加では公民館講座における青年層が興味関心を抱く講座の新規開設、フレンドリークラブにおける青年層向けの講座開設、体験では成人式実行委員会で若者自身がより主体的活動ができるような取り組みの推進、研修では若者の力とまちづくりのシンポジウム等各種講演会の参加周知を行ってまいりました。また、これと並行いたしまして青年教育推進の中核となるべき組織づくりが大切であると考え、青少年育成町民会議の会長・副会長に趣旨を説明し、青少年育成町民会議の中へ「若者活動支援委員会」（仮称）を立ち上げ論議を進めていただいております。この委員会では「青年団消滅に伴い、町内で若者が活躍する場が失われてしまった状況把握。町政策課が行っている「若者会議」とは違う視点で活動を行いたいこと。重要なことはあくまで主体は若者自身であること。上の世代があれこれ用意しても長続きしない等」の論議がなされております。現段階で町民会議の特別委員会で検討を進めていただいております仕組みづくりは素案の段階でありますので、今年度の総会で正式に部

会を設置していただき、さらに論議を進めていただくよう考えております。教育委員会といたしましては、これまで進めている事業への研修・体験・参加という方向性を持ち、青年層への働きかけを強めていきたいと考えておりますし、町民会議の若者活動支援委員会を中心に組織を確立し、ともに検討してまいりたいと考えております。

また、町が主催しております若者会議との連携も進めていきたいと思っております。いずれにいたしましても行政指導型ではなく、若者が主体的に取り組めるというものを大切に支援をしていきたいと考えておりますので、よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） ありがとうございます。再質問の方をさせていただきたいと思っております。

まず、町長がご答弁いただきました若者会議についてですけれども、それぞれの名物づくりのグループ、中部公園活用グループがそれぞれ計10回ほど行っておると、そして全体会に関しては4回、計25回ほどの、7月からということでもかなり短いスパンの間に多くの会議がなされておるのだなというふうな実感を持ちました。稼ぐことを目的にというお話で今議論を進めてもらっておるということなんですけれども、若者会議のホームページをちょっと若者会議・東員町でネットで調べさせていただくと、東員町のホームページの方に、この若者会議の話された内容、アイデアがホームページ上に全て公開されておりました。一般的な考えで申させていただきますと、企業であったり、飲食店にしろ民間団体にしろ、アイデアというものが一番皆さん大事にしておられるところで、それこそアイデア一つに何百万というお金を払ってでもそのアイデアを欲しがると、アイデアというのが非常に貴重なものなんだということ、私自身はそう考えておるんですけれども、もちろん行政側としてどのような進捗がされたのかということ公表していただくことは問題ないと思うのですが、アイデアを全てネット上に公開して皆が見れるようにするというのはどういう意図があるものなのか少しお聞かせ願いたいなというふうに思います。

○議長（鷺田 昭男君） 西村隆嘉政策課長。

○政策課長（西村 隆嘉君） お答えさせていただきます。ホームページで公表させていただいておりますのは、若者会議の皆さんが話し合っていたお過程を皆様にも知っていただきたい、これまで東員町にご尽力いただきましたご高齢の方にも今若者がどういうことを考えているかということも知っていただきたいという意味で、全部を今のところ公表させていただいております。今議員おっしゃっていただいたそのアイデアが企業さんにとっては資金を稼ぐ重要な要になってくるということはそのとおりかと思っております。私どもといたしまして、今議員おっしゃっていただいたようなところまで深くちょっと考えていなかったところもございしますので、若者会議の皆さんと相談して、今後そのようなアイデア、これを出してもいいかどうかというのを会議の皆さんと相談させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） ありがとうございます。もちろん皆さんにどういう会議がなされておるのか知っていただくというのは非常に大事なことだと思うんですけども、やはり若者会議自体はやる気のある方々、挙手で集まってきていただいた方であると。なのでずっと思いをですね、こういうことがやりたかったんだと温めてきたアイデアというものあの中にはたくさんあったと思うんです。それをやはり、せっかくこの場所で打ち明けてくれたという、そういう経緯もあると思いますので、その若者会議の方々の意見をしっかり酌んでいただけるようなそんな形の方向で進めていただきたいなというふうに思います。

次に、先ほど町長が言われていただきました名物づくりのグループでいろいろ議論していただいておりますということなんですけれども、名物づくりで若者会議自体が来年度までになるんですかね、一応形としては。その期限がある中で名物を作ってくださいというところが、単純にこれだけの期間で名物を作ってください、町制50周年の中で50年歩んできた中で、名物っていう、これという名物がなかなか出てきていないという状況の中で、1年や2年という中で名物を作るというのは非常にこれ難しい問題ではないのかなというふうに思っております。なので、若者会議に名物作りを託すというそのゴール地点、目標というものは一体どういうところに定められておるのか、少しお伺いしたいと思います。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 託すというよりも若い人が議論し合って、今議員ご指摘のように名物ないよねと、だから何か作っていかないとかなよねというようなことででき上がってきたグループだというふうに認識しています。期待もするんですけど、過度な期待というのはちょっとまずいなと、プレッシャーかけちゃうなという気がしております。我々も素材となるものを提供するような動きだとか、それからヒントになるようなことを皆さんにお示しするだとか、そんなことをしながら一緒になって名物づくりというものに取り組んでいきたいなというふうに思っております。そんな中で今一つ、二つそういう動き、具体的に、あります。それが名物になるのかならないのかわかりませんが、これは世の中へ出たときに皆さんが認めてもらえれば名物になるんだろうけども、認めてもらえなければどっかフェードアウトしていくと。これの繰り返しかなという気がしてます。先ほども言いましたように過度な期待はしてませんが、期待はしてます。やはり古い頭で考えるよりも若い発想というのはこれからの東員町には私は必要だというふうに思ってますので、ぜひともそこは期待はしておりますけども、一緒になって取り組んでいきたいという姿勢で臨まさせていただきます。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） ありがとうございます。期待をしておるけれども、過度な期待はせずにかこうという非常に町長の気持ちが垣間見える答弁だったなというふうに思います。ヒントになるようなことをこの名物グループで作っていただく、若者会議に託していくということでしたので、やはり若者会議、若者たちだけに任せるのではなく、町全体で名物づくりというものは行っていただきたいなというふうに思います。ぜひともよろしく願いいたします。

それで、若者会議のところでお話をさせていただきますと、本年2月の11日にひばりホールで若者の力とまちづくりのシンポジウムが行われました。このシンポジウムにおきましては、若者会議もディスカッションの中に参加させていただいております。運営の方であったりだとか、下準備の方も若者会議の方々が手伝っておるといふように伺っております。藻谷浩介氏、山田桂一郎氏、そして町長3名と東員町在住の若者たちがステージの上で意見を交わし合う、そんなパネルディスカッションが行われておりましたけれども、私自身見ても非常におもしろく感じました。今後のまちづくりのヒントが何かこう垣間見えたようなそんなシンポジウムだったと思うんですけれども、一つ気になった点がございまして、やはり客席を見渡させていただいて、260名の方々に来ていただいたという発表でございましたけれども、客席に若者世代の方々が少し少ないような感じがしておりました。若い子たちに向けてのシンポジウムであったにもかかわらず、やはり若者世代の参加者が少ないということが少し気になったんですけれども、町長若い子たちの意見を吸い上げたいんだ、町に活かしたいんだ、日ごろからずっと言っていたおるんですが、なかなかこう、それが町全体に響いてないそんなような気がするんですけれども、今後これはもう徐々に徐々に浸透させていくしかないと思うんですね。ですので、今後も若者を中心としたこういうシンポジウムであったり催し物というものを定期的開催される予定はあるのかぜひとも伺いたいと思います。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） それは私も大変同じ気持ちで残念なことの一つです。非常にまちづくり、今後の東員町を考えるに取り組みというか催し物であったと自負はしてるんですが、せっかくのイベントに若い方たちが少なかったと、実は若者会議の皆さんに、若い人をぜひ呼んで来てねというお願いはしたんですが、なかなかそれがうまくいかなかったのかなという気がします。これも今議員ご指摘のとおり、少しずつ、焦らず少しずつ、少しずつ参加していただく方を呼び込んでいくということを地道にやっていかないとなかなか難しいのかなというのを私も実感しました。ということで、若者会議の中で、これからはああいふイベントごとも含めてどういう取り組みをしていくんだということを真剣に議論いただいて、そして町と話し合いをしていただいて有効な手段があればどんどんやっていきたいなというふうに思っております。あくまでも若者会議の皆さんが主体となってどうするかというのをぜひお決めいただきたいなというふうに思っております。行政が用意するのではなくて、そういうところに若者会議での意見、声に行政が答えていくという形の会議にしたいというふうに考えてますので、議員もご提案あったらまたよろしくお願ひ申し上げます。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） やはり若者会議に関しましては、始まってまだ1年もたっていないというところで、もちろん今までにそういう会が東員町にあつて、そういう例があつてどういふ道筋で進んでいけばある程度ゴールまでたどり着けるんだというそういうものがあれば、彼ら自身にももちろん舵を取っていただいて、そしてその方々が主体となって全て決めていただくということはこれは非常に大事なことやと思うんですけれども、まだ期間も浅くて、右に行

っていいのか左に行っていいのかわからないというところで、やはりある程度のルールであったり道筋というものは行政の方々が少しやっぱり手助けをしていただける、そんな形でないとなかなか言いたい意見も言えなかったり、やりたいこともやれなかったりというようなところもあると思いますので、そのあたりはやはりいつも僕が言わせていただくのは情報共有というところだと思います。行政の方とその若い若者の方々の情報共有というものを若者会議と行政の中でしっかりとまた今後とっていただければなというふうに思いますのでぜひともよろしくお願いたします。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） そのとおりでして、これは設定されたゴールはないんです。若い方たちが何をしたいか、どうしたいかということをつリーでやっていただけてます。ただどこ行くかわからないという状況があります。そこでその中であの山田桂一郎さんに入っていて、いろいろな自分の経験からみんなの軌道修正もちょこちょこつこうしていただきながら、できるだけ前へ向いていくような指導をいただいているというふうに思っております。正直まちづくりについては、役場の職員もまだこれゴールというのは見えてないというふうに思ってます。ですからできるだけ経験のある方が、ある程度軌道修正していただくのがいいのかなというふうに思ってます、そこのところを山田先生をお願いしているというところがございます。もちろん、行政も山田先生と一緒に協議しながら、そこでどうしたらいいかという、できるだけいい手を打っていくということは心がけております。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） ぜひともいろいろな方々のご意見も聞き入れながら、やはりこう、どれが正解というのもないこととございますので、やはりしっかりと情報共有し合った中で前に進んでいただければなというふうに思っております。ぜひともよろしくお願いたします。

次に、教育長がご答弁いただきました青少年育成町民会議の中に新しく部会を設けまして、スタートしていく予定だと、次の総会でいろんな今後の方針であったり方向性というのもしっかりと議論していくという、そういうお話だったんですけども、先ほどお話を聞かさせていただいたときに、青少年健全教育、青少年の健全育成、社会教育の場を設ける、やはりあくまでも教育や育成というその分野にしっかりと特化していきたいというそういうお気持ちだというふうに私は感じたんですけども、教育を軸に据えた取り組みを行っていくということに関しましては、先ほど若者会議の方では意欲のある方々に手を挙げていただいて、その方々に舵を取っていただいてやっていただく。もしこれが教育を軸に据えるということなのであれば、もちろん手を挙げていただく方に率先してやっていただくというのは非常に大事なことですけれども、教育を軸に据えるということなのであれば、手を挙げることができない子たちや、少し消極的な子たちも全て巻き込んでいくことこそが教育なのかなというふうに感じております。そのような方々の背中を少しでも押してあげるようなことこそが、人を育てる教育に繋がる取り組みになるのではないのかなというふうに思っておりますけれども、そのあたり若い世

代の皆を巻き込んだ教育を軸に据えた取り組み、教育長としてどのようなお考えがありますか。

○議長（鷺田 昭男君） 岡野譲治教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えさせていただきます。私が教育と申しましたのは、社会教育の分野で社会教育法に則って、先ほど3点ほど説明をさせてきたことを進めていく。その中で基本的には青年ですので、私どもがすることは青年が参加する体制、青年が研修する場の提供、青年が体験する場のものをしていくと、そこは全ての青年に参加してもらうということは不可能であります。学校教育ではありませんので。そういうところを私どもがこういう場を提供しました。ぜひ内容のあるものですので参加体験してくださいという仕掛けを進めていくという意味であります。

以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） 私自身も青少年育成町民会議の会合の方に傍聴に行かせていただきました。その中で皆さんいろんなご意見があったんですけども、やはり青年世代の方々の、もちろん小学校・中学校を終えて、東員町、今で言うヤンキーという子たちになるんですかね、非行に走る子たちというのは東員町は意外と少ないのかなというふうに感じるんですけども、その青少年育成町民会議の中でもやはりそのあたりの話が出ておりました。何とか非行に走るような子たちを防いでいこう。そういう子たちも社会に出れるように、一緒に東員町の輪の中に入ってくれるようなそんな形の青少年の育成というものを考えていきたい。そういうふうなお話がありました。ですので、私はそういう子たちもしっかりと巻き込んでいく。いろんな環境の子たちがいます。いろんな状況の子たちがいる。そういう子たちのしっかりとした情報というものを、先ほども言わせてもらいました情報共有ですけども、その子たちの情報というものをしっかりと持っておられるのかどうか。私それをやろうとしていたのが、第1回目の若者座談会だったと思っておるんですね。あれの目的は、若い子たちの素直な意見を聞く場であったというふうに1年前の答弁の中にもあったと思うんですけども、その若者たちから意見を吸いとるような、そういうような取り組みというようなものを今後社会教育課として教育委員会として青年世代ですね、若者たちへのその取り組みをされていく予定はあるのかどうか。そのあたりどのように考えてますか。

○議長（鷺田 昭男君） 岡野譲治教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。先ほどもご答弁させていただきましたように、私どもとしては青少年育成町民会議の中に活動支援委員会というのを立ち上げていただくとしております。これは、今まで一つの委員会を立ち上げるということだけではなくて、青少年育成町民会議という何十年も続いている組織が青年層に向けてそれはすることが大事ですよというような今判断、決定なりをしていただいた、大変大きなことだと思っております。その具体的な中身は正式に総会で提議されて特別部会としてやっていこうということですから、そこを中心に私ども事務局として参加をさせていただいておりますので、いろんな意見をともに情報共有しながら進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） 何かを実行するに当たって、やはりその実行するための明確な理由というものが必ずそこにはないといけないと思っております。もちろん今後青少年育成町民会議の方でどういうふうな方向性でやっていくのかというのを議論されるのかもわかりませんが、やはり議論される中には、今の若者たちの現状はこうなんだ、こういうものに関心があるんだとか、こういう悩みを抱えているんだというそういう現在の状況というものをしっかりと把握していただいてからの、今後どういうふうな方向性でいくのかというふうな道筋になっていただくのが一番いいのかなというふうに思っておりましたので、そのあたりの現状把握というものがしっかりとできておるのかどうかというのを伺わさせていただきたいなと、そういう質問でございました。今後青少年育成町民会議の方でやっていただけるという形なのであれば、しっかりとそういう現状というものを把握していただけるような形をとっていただきたいなというふうに思っておりますので、どうかご検討をよろしくお願いいたします。

私が若者世代への取り組みについてという今回一般質問させていただいたのは、決してその若者を特別扱いしてくれだとか、若者たちをピックアップしてくれと、そういう思いで一般質問をさせてもらっておるわけではございません。あるお方の非常に感銘を受けた言葉がありますので、ちょっとここでご紹介をさせていただきたいなと思うんですけども、東員町のネオポリスの地域で夏祭りを実行されておる方がこんなことをおっしゃっておりました。何で夏祭りを頑張ってるんですかと聞いたところ、夏祭りをするのは決して自分たちのためにやってない。我々は移住してきた者、我々たちは移住してきた者は、それぞれに生まれ故郷は別にある。ふるさととは別なんだ。でも自分たちの子どもはこの町で生まれ、この町がふるさとなんだ。だから僕たちは夏祭りを自分たちのためにやってない、子どもたちのふるさとづくりのために夏祭りを頑張ってるんだと、そういうお話を私にさせていただける方がおられました。すごいなと思いました。今東員町の中では自治会の方でこのような子どもたちにふるさとを作ってあげる、青年世代が帰ってくることができる場所づくり、郷土愛ですね、郷土愛を育む、そんな催し物であったり取り組みをそれぞれの自治会の方々にはさせていただいてもらっておるというふうに感じております。しかし、本来ふるさとづくりというものは町が先頭に立って行っていかなければならないことだというふうに考えております。若者世代や子どもたちの世代に向けた郷土愛を育てる取り組み。これ私の経験上から言わせていただきますと、僕が一番小さいときに思いでに残っていることは東員ふれあいフェスティバル、ふれあいフェスティバルは東員町全員、ほとんどの方々、ほとんどの自治会が参加していただいてみんなで作り上げる一大行事だった。よくお父さんお母さんやおじいさんおばあさんにふれあいフェスティバルに連れて行っていただいて、焼きそばなんかを買っていただいたそんな記憶が今でも残っています。その中でうちの在所は盆おどりがありませんので、フェスティバルが唯一の盆踊りでした。そこで聞く東員太鼓ばやしは今聞いてもあのときの思い出をよみがえらせてくれる歌でございます。そのような形で自治会では盆踊りであったり、夏祭りであったり、いろんな形でふ



るさとづくりをされておるんですけども、現在の東員町にはふるさとを感じさせていただく、郷土愛を育ててくれる場所というものが少ないように感じております。そのあたり、町長、子どもたち、青年世代の子たちが、東員町が大好きだ、東員町に何とか恩返しをしたいという気持ちは必ず学校教育ではなく地域の社会教育から生まれると感じております。そのあたり郷土愛を育むような取り組み、どのように考えておられるのかぜひともお伺いしたいと思います。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） まずちょっとその前に、若者特別扱いがどうのこうのというお話に答えさせていただくのは、我々行政としてもこれからのまちづくりに若者の力が必要だと思っておりますから、若い人に期待をしている。若者会議に期待している。そこだけはお考えをいただきたいと思います。それと、フェスティバルですけど、平成21年ぐらいに消えたと思うんですが、私が聞いております範囲では参加いただいて、今言われたようなプラスの面があったということも聞いておりますが、もう自治会で人を集めるのも大変だとか参加者を募るのが大変だとかいろんなその地域、地域で支障も出てきて、マイナスの思考というものも出てきたということで、ネオポリスができて在来地区の人との交流というその目的は一応果たせたのかなということではいろいろな声を聞いてやめられたというふうに聞いております。私はこれからの今議員ご指摘の郷土愛を育む、あるいは感じられる場所作りというのは町民の皆様がこういうことをしたい、こういうことをしたいからやらせてくれとか、場所を提供せいとかあるいは支援をせいとかいう話が具体的に出てきたときに、我々は検討していかなければいけないのかなというふうに思ってます。行政がこうしたらどう、ああしたらどうというような時代がそれではなくなってきたというふうに思ってますし、やっぱりある程度続けていこうと思えば、やりたい人、本当町民からこういう趣旨でこういうことをやるんだというものを全面に出してきていただく。やることが何の目的なのということをはっきりと示していただくような取り組み。これを提案いただくということがそういう場を作っていく早道なのかなというふうに思っております。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） フェスティバルの中心になった経緯であったりとか、このようなどころは少しちょっと置いておいて、やはり町としてそういう子どもたちのふるさとづくりであったり、先ほど言われるような団地の方々と旧村の方々の触れ合えるような場所というような形でいろんな理由があったと思うんですね。だけれども、結局のところ今現在、町民の方々が何か一つの場所に集まって一つのことをやろうという場所がどんどんなくなっているというのが今の東員町にあるのではないのかなと、中止になったり廃止になったり縮小になったりというような形でどんどん規模が小さくなっていってると。もちろん、理由としてはいろんな理由があると思います。いろんなご意見があると思います。それはそれで全然いいんですけども、やはり若者世代への取り組みという形でいくのであれば、そういう子どもたちに対してふるさとを作ってあげられる場所もあれば兼ねておったわけです。そういうのが今どんどん薄れてきているというのも若い子どもたちが地元から離れていくという、そういう今のこれは東員町だけ

ではないかも知れませんが、いろいろな町で東員町離れていく結果に繋がっていったのかなというふうにも思いますので、何とかその東員町が好きなんだ、東員町をぜひとも自分で守りたいんだと思っていただけるような取り組みを地域ではやってもらってるわけですから、それを何とか町でも僕は推し進めていただきたいなというふうに思っております。それで、若者の定住を東員町で促進しておるといことなんですけれども、ぜひともこの流れでいきますと、僕は新しい若い子たちを他の市町から、他の県外から来ていただいて、住んでいただくというのも大事なんですけれども、一番まず進めていただきたいのは、今郷土愛の話もしましたけれども、東員町で生まれて東員町で育つ、そんな青年世代、子どもたち、また小さいときや今この子どもを抱える親世代になって東員町に来ていただいたそういう子たちが、生涯ずっと東員町にいたいなと思っていただけるような若者世代への取り組みを進めていただきたいと思うんです。他の市町から来ていただいて定住していただくのもそうなんですけれども、まず東員町にいる子たちを他に行かないような、東員町が好きだと、東員町に住みたいと思っていただけるような、そういう取り組みをぜひとも進めていただきたいなというふうに思っておるんですけれども、町長そのあたりどのように考えておられますか。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 結局ここに住んでみえる若い人たちが何を求めているかなんかと思うんです。やっぱり求めていること、やりたいことというのはあって、この東員町に誇りを持てるというのはこういうことで誇りを持てるんですよというものがあれば、それを具現化していただくのは多分行政ではないというふうに思います。行政が主導してもなかなかそういう取り組みにはなっていないというふうに思います。これは押しつけという部分も出てくると思いますし、それから、これからは行政が主体的に、何度も言ってるんですけども、行政が主体的にやるのではなくて町民が主体的にやる、そこへ行政が参加していくという形でないともそもそも何をやるにもうまくいかないという現実が僕はあるというふうに思ってますので、ぜひ町民の皆さんの中からこういうことをしたらどうなんだというアイデアを出していただかんことには、こっちから一方通行ではいい取り組みにはならないというふうに思ってます。ぜひそこはよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） 町長のいうことはごもっともだと思います。民間の方から声を出していただいて、そこから輪を広げていければいいというのはこれはごもっともな話なんですけれども、それを多分50年間やり続けてきているはずですが、絶対に。それでも今の現状、若い子たちがなかなかまちづくりに関して参加できないであつたりとか、少しちょっと町の催し物であつたり、イベントから遠ざかっているというのは、これは今になって出てきた問題ではない。ずっと町が行政が抱えておる問題なはずなんです。ということは今まで言うてきた行政が民間から皆から手を挙げてほしい、皆から意見が欲しいということだけではだめだということが僕は言ひたい。もちろん行政の方からそうやって挙げていただきたい、ぜひともお願ひしますというのも大事なんですけれども、例えばそのやり方がもっと焦点を絞るとか、ジャン

ルを絞るとか皆がわかりやすいような情報提供ができるというのも僕は一つの手なのかなというふうに思うんですね。やはりそのあたりは行政からももっともっと発進していただくことが僕は十分に必要じゃないかなというふうに思うんですけども、そのあたり、町長ぜひとももう一度お願いいたします。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 何度も言ってますけどニーズ把握が必要だと思うんです。例えば先ほど議員言われた若者とまちづくりのシンポジウムを見ていただいても、これ行政がしかけてますよね。若者会議の皆さんと一緒に。できれば若い人については、行政は行政で整理券を1,500枚ぐらい撒いてるんです。で、あの結果でしょ。ですから若い人については若者会議で声をかけて集めていただきたいなというお願いもしといたんですが、ああいう結果です。ですから行政が進めていくものが若い人たちのニーズに合ってたのかどうかということをお我々は検証しないとイケないというふうに思ってます。ですから、今ずっとやってきたということであっても、なかなか参加していただけないという現実があります。ですから、そこは町民の皆さんが主体となっていたかかないと、なかなか行政が仕掛けるということは難しいというふうに思ってます。難しいことはないですよ。やればいいんですけど、じゃあ成果を得られるかというとなかなかそこは難しいなというふうに思います。ですから主となる方、町民の方がこういう目的でやりたいんだと、ここでやりたいんだというものを出示してもらわないと、そこへ行政が乗っかっていくということではないとなかなかうまくいかないだろうというふうに思っております。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） ぜひともそういうことであれば、まずまちづくりをしていく前にひとづくりから入っていただくというのを私から切にお願いさせていただきたいというふうに思っております。10年後20年後、それこそ私が言わせていただいた50年後、100周年のときに、先ほど町長が言われましたリーダー、引っ張っていつてくれる、手を挙げてくれるような、そういう青年世代や子どもたちをゆっくり時間をかけて育てていただいて、何とか10年後、20年後先も、記念すべき、それこそ70周年・80周年をみんなで笑顔で迎えられるようなそのためにも若者世代への育成、教育というのも行政側としても何とか推し進めさせていただきたいなというふうに思っております。

私が今回質問させていただいたことに関しましては、やはり50周年という記念すべき年であるということで、50年ずっとこの本町を支えていただいた方々たくさんおられます。また本町では高齢者の健康寿命が男女ともに80歳を超えているという、本当健康長寿の町であるということで、元気なお年寄りの方々がたくさんおられます。そういう今だからこそ、その方々の経験や知恵というものをしっかりと若者世代であったり、その孫の世代に当たる子どもたちの世代にしっかりと繋げていっていただきたい。そういう若者たちを育てていく取り組みを行っていただきたいというふうに考えております。まちづくりはひとづくりから。人の成長なくして町の成長はないと思っております。ぜひとも若者世代や子ども世代の育成を踏まえた取り

組みということを今後もしっかり議論していただいて、郷土愛を育てていただく。そして10年、20年、30年たったときにその青年世代の子たち、子どもたちが東員町が大好きだと言ってくれるようなまちづくりを期待させていただきたいというふうに思っております。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 一言だけ申し上げたいと思います。若者会議まだ数カ月、1年たってません。いろんな議論を見せていただいて、それからいろんな取り組みを見せていただいております。私はこの若者会議の中から必ずこの東員町のリーダーが出てくるというふうに信じておりますので、この取り組みこそ、これも一つひとつづくりの取り組みだというふうに思っておりますので、どうぞちょっと長い目で見ていただければなというふうに思います。

○議長（鷺田 昭男君） 石垣智矢議員。

○4番（石垣 智矢君） あと一言、二言で終わらせていただく、そういう展開であったんですけども、町長からありがたいお言葉をいただきました。そういう形で若者会議も人を育てていくという形ですので、今後そういう形がどんどん増えていって、東員町、俺がやるんだ、おれが引っ張っていくんだというそういう方々であふれかえるようなそんなまちづくりにぜひともしていただきたいなというふうに思います。そのような願いを込めて私の一般質問を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。